

概要

修士や博士課程を取る際は、明確な目標を持って就活に臨むことが重要です。あいまいな理由で進学することは避けるべきです。博士課程を修了するためには、国際誌論文を2報以上発表し、教授の審査を通過する必要があります。東京理科大学で修士や博士課程を取得するメリットは、研究に時間を多く割くことができること、授業料が免除される制度があること、同一学科内に他の分野の研究室が存在し、多様な装置と教授陣が揃っていること、研究を3年または6年かけて深く掘り下げることができることです。一方、デメリットとしては、一つの研究室の技術に偏る可能性があること、研究の視野が狭くなる可能性があることが挙げられます。博士課程修了後、約70%の人が職に就いています。本日の講義で紹介された先生の研究分野は、高分子を用いたバイオマテリアルです。具体的な研究テーマとしては、表面分解による吸着物を除去するゲル、薬物を患部まで効果的に運ぶドラッグデリバリーシステム、がんに対する薬物送達ゲル、骨再生のための適切な微小環境を形成することなどが挙げられます。

感想

今回の講義では、キャリアの観点と研究内容について詳しく説明を受けました。キャリアの話では、博士課程の取得方法や東京理科大学で修士や博士課程を取ることにメリットとデメリットについて教えていただきました。自分は経済的な理由から博士課程を取るつもりはありませんでしたが、講義の中で奨学金を利用して博士課程を完全に負担なしで進めることができる例を知り、博士課程を選択する可能性も考えることができました。また、東京理科大学に入学する際に第一志望の大学に進学できなかったため、院試で再び第一志望だった大学の大学院に進もうと考えていましたが、講義で東京理科大学で修士や博士課程を取得するメリットについて聞いたことで、理科大での修士や博士課程を取る方が他大学で修士や博士課程を取るよりも非常に魅力的であるため理科大の大学院に進学することも検討してみようかと思うようになりました。研究内容については具体的な詳細はわかりませんが、講義の中で研究者が医療関連の材料に焦点を当てていることを知ることができました。